

パキスタンによる地下核実験の実施（5月30日）について

平成10年6月 2日
国際協力・保障措置課

1. パキスタンは、5月30日13時過ぎ（日本時間17時過ぎ）、パロチスタン州チャガイ近郊（イラン国境から約30 km）の核実験場において、28日に続き2度目の地下核実験を実施。
2. 実験直後のアハマド・パキスタン外務次官による会見の概要次の通り。
 - (1)本日1回の実験を行い、これで6回に亘る一連の実験を完了した。
 - (2)実験は完全に閉鎖された環境で行われ、放射能の漏洩はない。
 - (3)結果は期待通りであり、核兵器の形態と輸送システムに沿ったもの。
 - (4)インドは74年に核実験を行って以来大規模な核ミサイル・プログラムを進め、カシミール不法占拠等を行って来た。6回の実験は自衛及び侵攻を防ぐ戦略的均衡のための最小限度のもの。
 - (5)世界の主要国と核軍縮及び核不拡散について話し合う用意がある。新しい安全保障の秩序は不均衡や不正を止めることから始めなければならない。
 - (6)機微技術を他国に移転したことはないし、するつもりもない。

（参考）

- ※1. 気象庁及び当庁の防災科学技術研究所の群列地震観測システムの広域域地震計では、有震な地震波は観測されなかった。
- ※2. 30日夜発表された官房長官コメントは別添の通り。また、小野外務大臣はクレシ在京パキスタン臨時代理大使を再度相致し抗議。
- ※3. 29日、エルバラダイ IAEA事務局長は、インド及びパキスタンの核実験に対し深い遺憾の意を表明するステートメントを発出。

村岡官房長官コメント

1. 日本時間 5 月 30 日午後 5 時過ぎ、パキスタンが再度地下核実験を実施した。去る 28 日の核実験に際し、我が国を含む国際社会が発した強い非難にもかかわらず、再度パキスタンが核実験を行ったことを我が国は極めて重大に受けとめ、パキスタン政府に対し強く抗議する。
2. 再度に亘るパキスタンの核実験は、この地域の緊張を一層高め、危険な核軍拡競争を刺激し、不拡散体制を根底から揺るがし兼ねない極めて危険な行為であり、我が国は到底容認できない。
我が国は、パキスタンが核実験及び核開発を直ちに停止し、NPT、CTBT への無条件参加を求める国際社会の声に謙虚に耳を傾けることを強く求める。そのために、本日、小渕外相大臣が在京パキスタン臨時代理大使を招致する予定である。
3. この事案を受け、我が国は国連安保理等国際的な場で核不拡散体制の堅持と南アジアの平和問題等喫緊の問題につき積極的に取り組んで参りたい。